※令和４年度以降入学生用

学校番号	106

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	（学）美術芸術	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

多様な表現の方法を知り、様々な素材を扱う学習活動を通して、豊かな表現と鑑賞の能力を高める。
デッサン、絵画で基礎的な描写力や、モチーフを観察・表現する技能を身に着ける。鑑賞を通し美術表現に関する語彙文法を学び、作品の持つ意味の深い理解を促し、感性と美意識を高める。

2　学習の到達目標

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術文化と深くかかわる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

⑴ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表現することができるようにする。
⑵ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
⑶ 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくむとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表現することができる	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想している。 ・自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。 ・生涯にわたり美術を愛好する心情をはぐくみ、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	デッサン	【鑑賞】【素描】 ・表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に着ける。 ・対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力・判断力・表現力等を学ぶ。 ・造形表現を追求する態度を養う。	a:様々な角度からモチーフを鑑賞し、光源による光と影の関係性について学ぶことができる。（知） a:デッサン用鉛筆とカッターを扱うことができる。（技） a:反射光などによる、実体験を通してしか学ぶことのできない事象について理解することができる。（知・鑑） b:モチーフ同士の関係性や、画面上に配置するうえでモチーフの特性をうまく生かした構成にすることができる。（思） b:他者の作品を鑑賞し、表現したい世界観を感じ取ることができる（思・鑑） c:積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組むことができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート 観察	作品 ワークシート	ワークシート 観察
	油画制作	【鑑賞】 ・表現形式の特性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に着ける。 ・表現及び鑑賞に関する創造的な思考力・判断力・表現力をみにつける。 ・油絵表現の可能性を追求する態度を養う。	a:油画制作の基本的な方法について学ぶことができる。（知） a:技法を活用し、表現をすることができる。（技） a: 他者の作品を鑑賞し、表現について学ぶことができる。（知・鑑） b:画材の特性を活かし作品を深化することができる。（思） b:他者の作品から、色の重なりやズレによって生じる美しさを感じ取ることができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 講評シート	作品 講評シート	ワークシート 観察

※令和４年度以降入学生用

	立体造形制作	【鑑賞】【立体造形】 ・美的な造形性や機能性について理解を深めるとともに、専門的な技能を身に着ける。 ・表現及び鑑賞に関する創造的な思考力、判断力、表現力等を養う。 ・立体表現の可能性を追求する態度を養う。	a:立体表現の基本事項、道具の扱いについて正しく理解することができている。（知） a:道具を正しく使い、造形表現ができる。（技） a:他者の作品から、どのような意図をもって制作が行われているのかを感じ、理解することができる。また、実際に使用されている技法を説明することができる。（知・鑑） b:作業の手順を理解し、試行した結果を判断できる。（思） b:作品から構成やバランスの美しさを感じ取ることができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート	作品 観察	ワークシート 観察
2学期 3学期	立体造形制作	【立体造形】【鑑賞】 ・型取りをし、異素材に置き換える	a:基本的な型取り、注型の知識を身に着けることができる。（知） a:素材の特質をとらえ、効率よく作業することができる。（技） a:作品を鑑賞し、製本する際にどのような工夫をなされているかを理解することができる。（知・鑑） b:様々な素材から、立体表現に意識を持ち素材を加工することができる。（思） b:素材加工されたものをどのような意図をもって制作したのか理解することができる。（思・鑑） c: 積極的に講評に参加して、様々な表現方法を知り、学んだことをワークシートに詳細に書くことができる。（態） c:主体的に表現活動に取り組み、講評では自身の作品をプレゼンすることができる。（態・鑑）	作品 作品 ワークシート	作品 ワークシート	ワークシート 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度